

挑戦するのは私だけのためじゃない

新潟県立長岡聾学校

三年 小根山 夏 希

成長とは「動物や物事が育つて大きくなること」だそうです。体が大きく育つことだけではなくて、いろいろな力が育つこともあるんだなと思います。

私は、中学一年生の時から聾学校に通っています。聾学校に来てから、国語や数学の勉強をしたり、言葉や作業や生活単元の勉強をしたりしています。言葉や作業などの勉強は聾学校に来て初めてやりました。

中一で清掃の勉強をしたとき、最初は、清掃作業は苦手だと思っていました。例えば、自在ぼうきで真つすぐに掃くのはとても難しかったです。難しい時は「難しいです。」と言えました。でも、やり方の質問はできませんでした。聾学校に入ったばかりで、手話がよく分からなかったからです。早い手話や、話し声は特に分かりませんでした。質問も恥ずかしくてできませんでした。

その時の自在ぼうきの担当の先生は、いつも優しく一緒に清掃をしてくださいました。真つすぐに掃くところを見せてくれたり、黒板に書いて教えてくれたりして、ゆっくり何度も教えてくれました。そのおかげで、中二の頃から曲がらなくなりました。

清掃は苦手でしたが、清掃担当の先生方が、いつも一緒に練習してくださいって、嬉しかったです。今では清掃の勉強も好きです。中二の春休みには、母の職場のトイレ清掃を手伝えるようになりました。中三の今、私はお手本となって後輩と清掃をしています。

中一の頃を時々思い出します。私は清掃が難しいと思っていましたが、それでも、頑張り続けました。分かるために質問もできるようにになりました。

最初は好きではないことも、頑張ると少しずつできるようになりました。苦手でも、難しくても、負けない気持ちになって、自分から努力をしたいと思います。

今の私は、最高学年になって生徒会長の仕事を頑張っています。

会長は初めての経験です。中三になってからスピーチの仕事は何度も任せられました。原稿を書いて、内容を覚えて、上手に読む練習をして、正しい手話の形を確認しました。四月に三つの会長の挨拶を考えて練習をしました。毎日で暗唱しました。母と練習をしたり、一人で練習したりしました。

会長の仕事は、スピーチの他にもたくさんあります。四月の頃は、仕事のためにたくさんありました。「会長って忙しいね。」とつぶやくこともありました。でも今は「みんなのために頑張っているから忙しいのだ。」と分かっています。

人前で、たった一人でやるスピーチは大変です。でも上手に話すために努力しています。聾学校の皆に分かってほしいと思います。新しい手話を教えてもらってスピーチすることが好きです。長い文を覚えるのは大変ですが好きです。手話を覚えてはつきり話すことで皆に分かってもらえることは嬉しいです。

「人の話が分からない」とか「うまく聞いたり話したりできない」ということは大変です。中一で入学したばかりの私は、先輩方の早い手話や早口の声は分かりませんでした。早すぎてよく見えないし、よく見えないと声も聞きにくいからです。でも、「ゆっくりの手話で、ゆっくり話してください。」「マスクを取って、口を見せて話してください。」「お願いするようになりました。話が分からないのは辛いです。だから私は、生徒会長になってからスピーチの話し声や手話は、ゆっくりはつきりとするように気をつけました。分からないと思う人がいないようにやりたいです。」「上手だったね、良く分かったよ。」「とほめられると「やったあ。」と思います。

初めての清掃作業も、会長の仕事も頑張りました。頑張って挑戦すると、できなかったことができて嬉しいと思います。努力したことをほめられるのも嬉しいです。でも、それだけではなく、今度は友だちのためにも頑張ろう、と思うようになるのだと思います。今、私は「誰かのために頑張ることも嬉しいこと」だと思います。

努力をすると、何かに挑戦をすると、自分のためにもなります。でも自分だけではなく、皆のためにもなるのだと思います。これからは、私は努力や挑戦をしていきたいです。

作文を書くに当たって

成長とは何かを考えながら、聾学校に入学してから体験したことや感じたことを書きました。その中で、努力や挑戦は自分だけではなく誰かのためにもなるのだと思いました。私は書くことが好きなので、これからは自分の思いを文字にして表現していきたいです。